

Report

TOURISM UNIVERSITY

北海道ツーリズム大学の この1年

新しいライフスタイルを見つめなおす場として

昨年7月、全国では九州に続いて2番目の「地域づくり、ツーリズムの担い手育成」を目指した北海道ツーリズム大学を開校しました。

北海道ツーリズム大学は何よりも人と自然とのかかわりや農と食、地域の歴史や文化を学びながら自分らしいライフスタイルを見つめなおす、自分らしい生き方を身につける場として受講生とスタッフがともに作り上げる大学として出発しました。この大学は、単に専門家から知識を知識として学ぶのではなく、具体的な知恵や技を実践と豊かな経験を通して身につけていく場でもあります。

北海道ツーリズム大学で得た人と人との小さなネットワークは、やがて自分自身の糧となり実を結んでいくに違いありません。混沌とした時代に、自分らしさとは何かを溢れる情報の中で見つけ出すことは大変になってきています。自分らしい生き方を、人との語らいの中から探し出し、実践を通じながら身につけ、受講生の「一歩踏み出す勇気を応援する」これが北海道ツーリズム大学の最大の目標です。

北海道ツーリズム大学の学長であり、またいまではすっかり有名になった大草原の小さな家の創業者である中野一成氏は、「いくら理論を学んでも一歩踏み出す勇気がなければ何も進まない。何も変化しない。大事なのは実践だ。」と受講生にエールを送りつづけています。中野一成学長は自らの勇気の源泉を受講生に語りかけ励ましつづけます。彼の祖父が亡くなるとき自分を枕元に座らせ「手2本、足2本、合わせて4本（資本）これがあれば何でもできる」と半紙に書いてくれた。その言葉が今日の自分を築きあげてきたと。



NPO法人 北海道ツーリズム協会 事務局長

武田 耕次



地元の食材を活かした料理について学ぶ

北海道ツーリズム大学が目指したもの

スピードがもてはやされ、すべてがコンビニ化され便利になった反面、失われたものも大きかったのではないのでしょうか。北海道ツーリズム大学では、人と人とのつながり、自然との関係などをもっとゆったりとした深い絆で結ばれていることが実感できるライフスタイルを提案しています。

都市も農村も今大きな壁にぶつかっており、これまでの都市と農村との対立的な考えからは解決の糸口は見えてきません。都市と農村との関係をもう一度見直していく必要に迫られています。ツーリズム大学では『農村の生命の豊さ、尊さを都市へ、都市のエネルギーを農村へ』循環させていく取り組みを目指しています。

とりわけ、これからの北海道は中央依存型の地域づくりではなく、地方主体の内発的発展が求められています。北海道ツーリズム大学は地元の資源、自然や農業、文化を土台にした地域内市場の発展を重視し、地域住民が自立的、主体的に学習、計画し、自分たちの地域を経営できる主体へと成長できるため、第一次産業の中心となっている農村を舞台として地域における個性、魅力（＝自然・産業・文化・歴史）の複合体の活かし方、地域経営の方向性などを「ツーリズム」という切り口でとらえ、掘り下げ、内発的発展を進行していく要である「人材」を育成していくという大きな目標を掲げ、この1年間実践してきました。

多彩な講師と内容の魅力で

1年目の昨年は、湯布院の溝口薫平氏（湯布院商工会会長）を開校の記念講演に迎え、単なる田舎の温泉地だった湯布院を現在の日本を代表する湯布院にしていった極意を学びました。湯布院の取り組みの奥は深く、多くの町や温泉地がそうであったように、都会的なものを目指さず、地域の歴史、先人の知恵に学んだ取り組みを続けた結果と言えます。そして、ツーリズムは都会の人たちとの「親類づくり」の取り組み、田舎の親類としてお客様を迎える関係をつくっていくことだと教わりました。

実は、ツーリズム大学の修学旅行ということで、この目で湯布院を見てみようと、12月、受講生とスタッフで「湯布院、小国、黒川を訪ねる旅」を企画、実行しました。湯布院のもう一人の顔である中谷健太郎氏を囲んでさらに湯布院の取り組みを奥深く学んできました。さすが湯布院。町の照明一つにも気がつかっています。町道のちょっとした空き地に立派な木々を植える。（お祝いなどに木を植えてあげる＝木を養子にだすそうです）また、ホテルが客を囲い込まないシステムをつくりあげるなど他にはない様々な取り組みをこの目で確かめてきました。

また、農と食をテーマにした講座も好評でした。拓殖短大の相馬教授を講師に招き、本物の食とは何かを参加者と一緒に考えました。4回目の講座ではホテルクラービーサッポロの料理長貫田桂一さんから「おもてなしの心」について学ぶなど一流の講師から学ぶ楽しさを知りました。

地域の課題にも

11月の講座では糠平（上士幌町）地域の魅力づくりをワークショップで作り上げる地域づくり講座を行いました。

事前に糠平地域の歴史や資源などについて資料を集め、当日、地元の人に地域の説明をしていただき、参加者の目で地域の魅力を発見してもらい、どのように活かしていくかをグループごとにまとめ、発表しました。このなかで私たち主催者は勿論ですが、地元の人たちが最も注目したのは、こ

れまで地域の方が魅力と感じ、それを核にした地域づくりを進めてきたものが、お客様の立場である参加者の目には全く違うものが魅力として捉えられ、新しい地域作りの提案がされたことです。

この結果をツーリズム大学としてまとめ、地域の方々に還す作業をしていますが、ここで出された「提案」がこれからの取り組みの参考の一つとして受け入れられることになっていくことになればとてもありがたいことです。

「農業をやらないか」に戸惑い ～受講生の変化が

わずか年間6回の講座、しかも土日月の日程のため、どうしても月曜日は仕事等で参加できない場合も多いのですが、ツーリズム大学に参加したことで確実に受講生の心に大きな変化の灯火をつけたと思います。

ある受講生は（大学生）「農業をやらないか」と、農家から言われることが度々あった。しかしその当時は、農村への憧れはあっても、非効率的な社会に説明のつかない劣等感のようなものがあり冗談としか受け取っていなかった。しかし、最後にツーリズム大学卒業の感想として彼は「本気で農業・農村について考えるなかで社会の中で農村の役割の重要性に気づいた」と述べています。

また、癌の手術を受け、「人生を見つめなおしたい」と参加した人もいます。自分を解放できる場としてツーリズム大学に参加し、回を重ねることで日常の付き合いとは違う仲間ができ、卒業時



ここでの出会いと交流から新たなネットワークも生まれる

には本当に手術を受けたのだろうかと思うくらい元気になった方もいます。多くの受講生は、職場など日常とはまったく違う仲間、しかも職業や年齢を超えて対等に付き合うことのできるネットワークが自然にできました。このことが受講生にとっては何よりの収穫であり、糧になったことと思います。

ツーリズム大学 — 2年目のスタート —

すでに2年目、2002年度の講座が始まっています。昨年の様々な経験から2年目の北海道ツーリズム大学はなにを目指すのか、またどんな講座内容にしていくのかについて検討しました。その結果、結局北海道ツーリズム大学が目指していくものとして、都市と農村との循環、あるいは自然と人間社会との循環などいわば「循環」をキーワードに内容を深めていくこと。また、ツーリズム大学に参加すること自体が『あたらしいツーリズム』となるよう運営を魅力あるものにしていくことを目標としました。

5月25日、2002年の開校式。その記念講演に獣医師で道東を舞台に自然の再生・創造活動が続けている竹田津実氏（小清水町在住）を講師に招き、自然と農業、人間の活動との循環、折り合いのつけ方について講演をしていただきました。竹田津氏は「100の議論より1本でも木を具体的に植えることだ。」とこれまでのご自身の実践にもとづいた話しは受講生に深い感動、やる気を起こさせました。

また、第2回目の講座（6月29日～7月1日）の講座では、「地域づくりの手法」のついて実践的に学びました。日本グランドワーク協会理事の千賀裕太郎氏、高野ランドスケーププランニング（代表＝高野文彰氏）によるワークショップでの地域づくり講座でした。土地改良法が改正されたことの伴い、『田園環境整備プラン』が地域の合意のもとに作られていることが今後の土地改良事業の前提として義務付けられたことを重視しての取り組みにしたものです。

北海道ツーリズム大学として、将来地域にとってどのようなことが課題になるのかなども見越し

ながらできる限り実践的に学んでいく講座作りをしたいと心がけています。ことしの全体計画は表1の通りです。地域づくり、食と農、アグリビジネス学科のテーマごとに新しい課題に取り組むことにしています。

北海道ツーリズム大学は新しいツーリズムのテーマとして『語る・作る・学ぶ』を掲げています。受講生同士が語り合う。そこからネットワークが生まれます。そのために交流を大事にしています。夜を徹して語り合うこと自体がツーリズムそのものでもあります。これまでの旅行はあまりにも忙しすぎるものです。ゆったりとした時間の中に身を置くことで人の良さ、地域のすばらしさが見えてきます。今年のツーリズム大学は昨年の反省を踏まえ、朝のスタートを遅らせることで参加者にとってもゆったりとした旅の気分を味わってもらうことができている気がします。

新たな課題に挑戦

北海道ツーリズム大学として今年は新たな目標に向け、様々な課題に取り組んでいます。その一つは、都市と農村との交流をテーマに『定年帰農講座＝田舎暮らしのすすめ』を計画しています。田舎暮らしをねがう都会の人たちが増えつつありますが、田舎へ移り住むうえでの必要な情報が必要な人に届いていないのが現状のようです。それへの対応として企画したのですが、継続的に



講義の後グループに分かれワークショップで討論を深めていく



一人ひとりとても生き生きとして受講

実施することで都市と農村の循環の流れを創り出していきたいと考えています。

さらに、最近農村の多面的機能の中でも教育力が注目されています。学校5日制が本格的に実施されたことにより、また、ゆとりある教育が求められるなかで「農」の体験が極めて有効であるとして各地で取り組まれ始めています。北海道ツーリズム大学としても「夏休みワイルドキッズ・スクール」、「夏休み・北海道わんぱく体験ツアー」の実施。教育ファームの実践農家を広げるための研修会の開催、学校関係者、社会教育関係者に理解を広げていくためのシンポジウムの開催など子どもを対象にした事業にも積極的の取り組むことにしています。

おわりに

ツーリズム大学を作りたい。その想いだけで、どうすればできるのか？ カリキュラムは？ 資金は？ 等などあまり先のことなど深く考えもせず取り組み始めました。プレスクールから昨年の開校、そして2年目。ツーリズム大学の中野一成学長

がいつも強調していることですが「とにかく一歩前に入る実践なくして前進なし」ということで、ともあれ進んできました。この2年間多くの方々のご協力、ご支援により北海道ツーリズム大学をともに作り上げてきました。ともに作り上げながらツーリズム大学も受講生も成長していく。この姿勢こそ、北海道ツーリズム大学がこれからも大事にしていきたいと考えています。

北海道はいまほど自立を求められているときはありません。地域資源のすばらしさはどの地域にも負けないものを持っています。その活かし方を身につけ、ネットワークをつくりあげる役割を担っていききたいと思います。



北海道ツーリズム大学

【事務局】 河東郡鹿追町瓜幕東2丁目9
NPO法人 北海道ツーリズム協会
TEL (01566) 9-8088 <http://www5.ocn.ne.jp/~htu/>

2002年度ツーリズム大学講座

学科	日程	講座内容	講師
地域づくり・ツーリズム学科	5月25日(土) ～27日(月)	開校式 道東の自然と農業 十勝の自然の歴史と農業 ツーリズム概論 入学生歓迎交流会	竹田津実氏 (獣医師=小清水町) 林光繁氏 (十勝毎日新聞社長) 佐藤誠氏 (熊本大学教授)
	6月29日(土) ～7月1日(月)	21世紀の森をつくろう ワークショップ 田園環境整備のプランづくり ホーストレッキング 一期生、二期生交流会	高野文彰氏 (高野ランドスケープ代表) 千賀裕太郎氏 (日本ランドワーク)
農と食学科	10月5日(土) ～7日(月)	十勝の食材を活かしたもてなし 十勝の食材の魅力を語る 安全な食生活と健康 まるごと十勝大豆で「みそ・豆腐」づくり実習	長屋莊重氏 (ふく井ホテル取締役料理長) 長谷川 浩氏 (長谷川クリニック院長) 長澤とうふ店 (鹿追町瓜幕)
	11月9日(土) ～11日(日)	マイペース酪農と環境 チーズづくりを体験しよう (ワークショップ実習)	三友盛行氏 (酪農家=中標津町) 大樹町ファームステイ研究会実習・交流
ビジネス学科	2003年 2月8日(土)～10日(日)	「農」をテーマにビジネスチャンスを考えよう ワークショップ 女性起業家フォーラム 「農」をテーマにした北海道の取り組み	吉田氏 (モクモクファーム専務=三重県伊賀町) 岡川毅氏 (㈱八丸八社長=釧路市) 相馬曉氏 (拓殖大学北海道短期大学教授)
	3月8日(土) ～9日(日)	卒業記念講演 卒業式・卒業パーティ	中野一成学長

2002年度特別講座

定年帰農講座 ／7月～9月	農のあるくらしをテーマに農に伝わる技、文化を学び地域と交流する	家庭菜園の作り方収穫体験など(収穫した野菜で料理) 旬の山菜を採る(食べられるキノコ・毒キノコの見分け方)
乗馬教室・随時	初心者から本格的なトレッキングまでレベル毎に行います。	
ステレオ工房／1月	自分の真空管ステレオをつくろう。	4日コース (30時間) 受講料+材料費
ファームイン開業専門講座 ／1月18日～20日	ファームイン等を開業したい人のための講座です。 実践家、専門家から学びます。	私のファームイン 湯浅優子氏(つっちゃんと優子の牧場のへや) 北海道のファームインの取り組み 横市英一氏(B&B協会) 鹿追町のファームインから学ぶ 中野一成学長
ログビルター講座 ／1月24日～27日	〔初級編〕ログビルダーの基本を学びます。 〔中級編〕自分の家ができるように本格的技術を学びます。	初級・4泊5日(宿泊費別) 中級・料金等は未定です 中野一成学長

●日程や講師、講義内容につきましては都合により変更になる場合があります。